

## 発話頭に出現する「だから」の役割についての考察 —親子・姉弟の会話の観察を通して—

吉岡理絵

### 1. 序論

コミュニケーションにおいて、接続詞は重要な役割を果たす。それは、日英問わず同じであり、日本語の接続詞の一種である「だから」と英語の *so* もそのうち一つである。英語で「だから」を意味する接続詞、*so* がターン開始の位置に出現した場合、一番初めの話題を導入するターンの継続を伝え

(Bolden:2006)、新しい話題の提供する (Bolden:2008) と言われている。だが、日本語の接続詞「だから」は、英語のそれらと異なる。森田 (1980) によると、日本語の接続詞「だから」は、原因・理由の役割を持つことが示した。また、岡本・多門(1997)では、談話内に出現する「だから」を結論の正当化・結果の記述・結論の推測・行動指示/宣言・理由の説明・説明の補足・共有知識の確認・現場知識の確認・説明継続の合図・発話行為の明示の 10 種類に分類し、それらの関連性について論じたが、実際の会話で、それぞれの用法の頻度や傾向等は扱っていない。

そこで、本レポートでは、YouTube より (EBIZO TV 市川團十郎 白猿) 親子・姉弟の会話の動画を観察し、岡本・多門 (1997) による「だから」の諸用法 10 種類に娘 (以下) の 4 例と父 (以下 E) の 4 例を当てはめることで、「だから」の持つ役割には親子でどのような違いがあるか分析を行った。その結果、R は、結果の記述、E は、行動の指示と知識の確認の役割を持つ「だから」を多く使用する傾向にあり、さらに会話状況や内容を照らし合わせてそれぞれの役割を考察したところ、R の「だから」は、評価を想起させる役割、E の「だから」は、教育的な役割をもつという結論に至った。

本レポートは、次のように展開する。2 節 *so* と「だから」に関する研究の概観、3 節分析対象と方法の提示、4 節 R (4 例) と E (4 例) を岡本・多門 (1997) に当てはめ、用例ごとに役割を分析、5 節 4 節での結果を受けて、R と E が使用する「だから」の役割の差について、会話内容、状況と照らし合わせて考察した。

### 2. 先行研究

## 2.1 ターンの開始に位置する so

### 2.1.1 最初の話題を導入するターンの継続を伝える so

Bolden(2008:312)では、ターンの開始に位置する *so* には、初めの話題（電話での会話出会えば、電話の理由など）を導入するターンが、異なる内容が突然話されることで、最初の話題に続くはずの発話が遅れた場合に、そのターンがまだ続いていることを伝える役割を果たすとされている。

(8.19) “What’s up” (Bolden 2008:312)

((In line 1 Adam is referring to taped explanation of the protocol of the Call Friend research study, under which the call to his fiancée Berta will be recorded.))

1 Ad: You heard that right,  
2 Be: Hm-hmm,  
3 (0.2)  
4 Ad: .hh hhh.hh [Hso:::h  
5 Be: [tk.hh Yup.  
6 (2.5)  
7 Ad: ° So keep in mind that [this is b- °  
8 Be: [o(h)h my pho:ne's ringing  
9 upstairs now. =too.  
10 (0.2)  
11 Ad: Does it matter?  
12 Be: Nope-.  
13 (1.8)  
14 Be: I don't care.  
15 (.)  
16-> Be: ↑**So what's up** ↓ **honey?**  
17 Ad: {0.2}/{.hhh}  
18 Ad: Oh ma:n last night the phone rang, at- three thirty,  
19 (.)  
20 Be: In the morning?  
21 Ad: Yeah.  
22 Be: .hhh You're kidding.

1~7 行目で、一度、Adam (電話のかけ手) は、Berta に、友達に電話するという内容の研究課題とそのプロトコルを思い出させたが、8~9 行目で、Berta が急な電話が入ったこと告げる。彼女は、その電話には対応しなくてよいと判断したため (10-14/15)、Berta の次の so から始まるターン (*So what's up honey?*) により、Adam が電話をしてきた理由を尋ねた (16 行目)。

### 2.1.2 新しい話題を提供する *so*

さらに、Bolden(2006:670)は、ターンの開始に位置する *so* は、新しい話題の提供、段取り、お祝いのメッセージを伝える役割を果たす。以下に示す例は、*so* によって新しい話題が提供された際の発話である。

(8.20) "Palm Springs" (Bolden 2006:670) (adapted)

((From a get-together hosted by Jim and his wife Leni. Sam is an elderly relative. The talk in line 1 concerns Jim's typewriter.))

1 Leni: Yeah that's (what I'm worrying about)  
2 Leni: (thinking about)  
3 (2.3)  
4 ( ): ((sniff))  
5 ( ): ((grunt))  
6 -> Leni: **So you haven't been out to Palm Springs for while.**  
7 (.)  
8 Sam: ↓Have you I can tell you lost your ta:n.  
9 Not for three weeks (now).  
10 Leni: Yeah, ( ),  
11 Sam: ( [ )  
12 [((...))  
13 Sam: I wanna go when it's convenient for me.

6 行目で、Leni は、裏付けを必要とする *have+been+過去分詞* の形式で、新しい話題 (サムは、まだパームスプリングスに行ったことがない) を提供したが、ターンの前に *so* を置くことで、まだその話題が続くものであることを効果的に示している。

## 2.2 日本語の接続詞「だから」

### 2.2.1 原因・理由を表す「だから」

森田(1980)では、接続詞「だから」を例文と共に次のように定義している。「だから」は、原因や理由を積極的に示し、「Aです。だから、Bです。」において、**B という事実の生ずる理由や原因を A** ですするという。

- ① 「収入が千円、支出が二千元。**だから**、損害は、差し引きの千円である。」
- ② 「その守っている男たちは、もう年を取ってかれきのようにになっているが武芸だけは優れた…と、そんな感じ。**だから**、守っている風情になかなかの味がある。」

上記の例の「損害は、差し引きの千円である」と「守っている風情になかなかの味がある」が、**事実**にあたり、「収入が千円、支出が二千元」と「もう年を取ってかれきのようにになっているが武芸だけは優れた…と、そんな感じ。」が**理由・原因**に当たる。

### 2.2.2 10種類の「だから」の諸用法

岡本・多門(1997)では、談話における接続詞「だから」を10種類の諸用法に分類した。ここでは、その分類と例文を示す。なお、以下の用例に、S、Lという表記があるが、S=話者、L=聞き手を意味する。

#### I 結論の正当化

前件が後件を結論づける原因・理由となることを示す。話し手が以前から前件が理由であることを知っており、聞き手に知らせるというニュアンスの場合（終助詞「よ」等）の場合と、話し手が初めてそれに気づいたというニュアンスの場合（終助詞「ね」等）がある。

- A. 太郎は風邪を引いた。だから学校を休んだ {よ/ね}。
- B. 牛革（のランドセル）って重いでしょ。だから、いやだったのに主人が譲らないから。

#### II 結果の記述

前件が原因で後件の確定事実が結果として生じたことを述べている。事実に関する因果関係を扱う点では、Iと同じ。

- A. L:山田さんは気が利くよね。S:だから、会社でも人気があるのよ。  
B. いよいよ片付くなあと思ったけど、届かなかったのよ。だから、ほら、また延びたわけよ。  
C. L:刺身にサラダは合わん。L:だからひじき煮てあるから。

### III結論の推測

前件を根拠に評価、望むべき状態、可能性のある事態について等の推測的な判断をする。

- A. 部屋の明かりが消えている。だから花子はいない**と思う**。  
B. (英会話、4:40に始まると)終わりが5:40くらいになっちゃうでしょう、ねえ、だから、ちょっと遅いかな**と思って**ね。  
C. でも他にもたくさん勧誘しますから、だからいろんな人と会えて楽しい**と思いますよ**。  
D. 部屋の明かりが消えている。だから花子はいないよ。  
E. そのたびに会費を集めてみんなで行こう、っていうクラブなの。だから、べつに行きたくなければ行きたくなくてもいいし。

A B Cは、後件が不確定であることを「思う」等によって明示される、DEは、されていない。

### IV行動の指示/宣言

IIIと同様に、前件に基づいて推論が行われるが、その結果として、後件に来るのは、聞き手がとるべき行動。(依頼、命令、勧めなどの行動指示 (A・B・C) や、話し手の行動の宣言 (D) である。

- A. L: この辞書おかしいよ。 S: だから出版社に言ってやれば。  
B. L: どうせそれこそ (学校生活の) 残りも少ないからなあ。 S: んーだから (サークル活動を) やろうって。  
C. L: 2年生はこれから、あれでしょう、結構中心になって動くんじゃない? S: そーだね、だから (あなたもクラブに参加して) 一人でも多くの活動力アップを。  
D. いやになったら、いつでも辞めれりゃええ、だから、そういうことで、ほんじゃあ、名前言うとかわ。

### V理由の説明

前件がきっかけで提起された疑問に対し、後件でその原因・理由を述べる。まず、前で言明されたことがらに対して、後件でその理由を述べる。

- A. L: 山田さんは寝込んだね。 S: だから働きすぎなんだよ。  
B. L: (スーパー等では) あんまり太刀魚の刺身を置いてないなあ。 S: だからやる(さばく)人がいないんだって。

### VI説明の補足

後件が、前件に関わる事柄に説明を加えて情報を補足する場合。前件の内容からLが認識不十分な点があることが察せられるため、(聞き手の応答や発話が事態の認識不足さを示唆している。) Lに事態を十分に認識させる部分(付加説明や反論)を含み、一方で、認識の共有を確認するだけの用法(用法VII・VIII)

- A. (Sがサークルの説明をするのに対して) L: どんな奴の集まりなんや、それは。 S: だから、あんたとこと似たようなもんやて、よう似たもん。レジャー系。  
B. L: レジャー系? S: うん、だから、レジャーで楽しもうっちゅうもんやね。  
C. S: ニューオータニのプールの券があるの。 L: ああ。 S: だから 4枚もあるからねえ、

### VII知識共有の確認

VIに見られるLの認識の欠如が徹底した場合である。以前にSとLの間で話題になったはずのこと自体をLが知らない様子の場合に発話される。

- A. L: 今日はどうする? S: だから買い物に行くんじゃないの?  
B. S: (トランプの)クラブ持ってたら出さなきゃダメ。 L: 正直に申告するの?  
S: だから持ってたら出す。

### VIII現場知識の確認

VIIの基礎知識が生ずる根拠を、先行文脈から現場に置き換えた用法。現場から聞き手が事実を認知可能であると期待できるが、それにも関わらず、聞き手が理解を示していない様子なので、話し手に確認の必要が生じる。

- A. L: (晩ご飯のおかず) 今夜何? S: 今夜、だからね。(ヒラメのパッケージを示す。)
- B. L: なに、もう帰るの? S: だから、いまーまだ9時でしょ。もうちょっといると思うけどー、

#### IX説明継続の合図

説明を続けていくための合図。

- A. S: それに、わたし、12月ー、いろいろね、あるんですよ。L: あ、そうですか。S: だから、あの、ほら、子供の方のまあ、ね、事も、ちょっと、こ、ちょっとしなくちゃいけない事があって。
- B. (店の仕事が忙しい状況を説明して) だからね、今日ね、こうなの。こういうふうなの。見てもわかるようにね。だから、時間も今ならこんなにひまになったんだけど、今まではもっと大変なの。

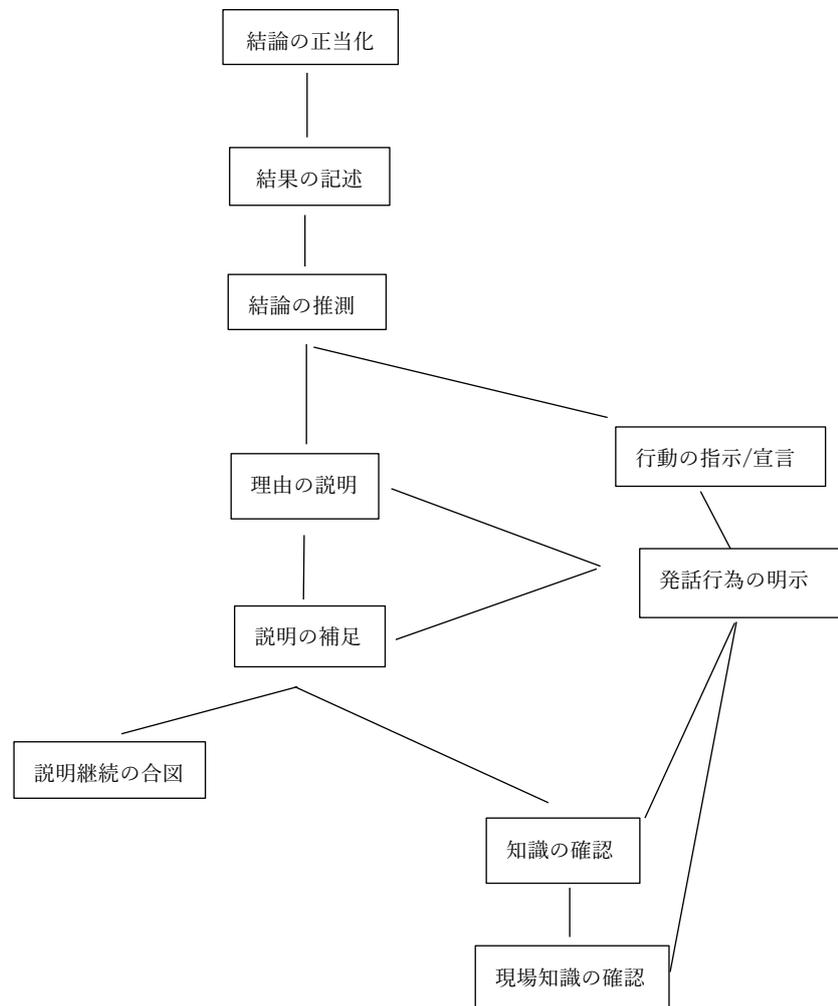
#### X発話行為の明示

後件に「と言うんです」、「と言ったでしょう」等の遂行動詞を付加して、発話行為自体を記述、明示している。

- A. L: (ビールケースをベランダに出して) そこ、日が当たらんから S: だからよ。一番いいって言うのよ。
- B. L: 疲れました。 S: だから休んでくださいって言ってるんです。

「だから」の諸用の関連について、岡本・多門(1997)は、次のように図にまとめた。

図1：ダカラの諸用法の相互関係



- A. 結論の正当化（Ⅰ）と結果の記述（Ⅱ）は、事実に対して、原因と結果を割り当てているという点で共通している。
- B. 結論の推測（Ⅲ）は、結果に言及する点で結果の記述（Ⅱ）と共通する。
- C. 結論の推測（Ⅲ）と、行動の指示/宣言（Ⅳ）、そして、理由の説明（Ⅴ）の一部とは、前件から結論を推測するという点では共通する。
- D. 説明の補足（Ⅵ）、知識共有の確認（Ⅶ）、現場知識の確認（Ⅷ）は、前件に説明を与えるという点で、理由の説明（Ⅴ）と共通する。
- E. 説明継続の合図（Ⅸ）は、理由の説明（Ⅴ）と前件に情報を付加するという点で共通する。

### 3. 分析対象・方法

### 3.1 分析対象

本レポートでは、YouTube より (EBIZO TV 市川團十郎 白猿) 親子・姉弟の会話の動画を観察した。家族構成は、海老蔵 (以下 E) 父、43 歳・麗禾 (以下 R) 長女、姉、9 歳・勸玄 (以下 K) 長男、弟、7 歳の 3 人、動画の観察時間は一本につき 15 分とし、理由は、一本の動画は、約 10~15 分以内のものがほとんどであるためである。なお、ごくまれに、15 分を超える動画が存在するが、その場合も、観察時間は 15 分までとした。動画の総本数は、E・R・K のみの動画を除いた全 35 本 (2020/11/7~2020/12/31 の動画)。

### 3.2 分析方法

岡本・多門 (1997) による「だから」の諸用法 10 種類に E の「だから」の 4 例、R の「だから」の 4 例を当てはめることで、親子が使用する「だから」の役割にどのような違いが見られるかを分析する。また、会話表記は、Du Bois(2014)のトランスクリプションを参考に以下の表記を使用した。

#### Transcription Symbols

記号	意味
E	発話者
.	発話の終わり
:	語尾の伸ばし
?	質問する
!	強めの口調
(3)	発話と発話の間の沈黙の秒数
[ ]	会話のオーバーラップ
ハイライト	前提
ハイライト	「だから」を含む発話
↗	上昇調のイントネーション
↘	下降調のイントネーション
@	笑い
↑	声のトーン 高い
↓	声のトーン 低い
XXX	聞き取れなかった箇所
・	K が一人で踊りを練習する時間 (E の用例くで登場する表記)

#### 4. 分析

本セクションでは、親子・姉弟間の会話における「だから」を観察し、岡本・多門（1997）による「だから」の10種類の分類に当てはめることで、親子による「だから」が、それぞれ、どのような役割を果たすかについての分析を行う。まず、分析に入る前に、岡本・多門（1997）による「だから」の10種類の分類を再度、以下にまとめる。

- I. **結論の正当化**：前件が後件を結論づける原因・理由となることを示す。
- II. **結果の記述**：前件が原因で後件の確定事実が結果として生じたことを述べている。
- III. **結論の推測**：前件を根拠に評価、望むべき状態、可能性のある事態について等の推測的な判断をする。
- IV. **行動の指示/宣言**：前件に基づいて推論が行われるが、その結果として、後件に来るのは、聞き手がとるべき行動。
- V. **理由の説明**：前件がきっかけで提起された疑問に対し、後件でその原因・理由を述べる。まず、前で言明されたことに対して、後件でその理由を述べる。
- VI. **説明の補足**：後件が、前件に関わる事柄に説明を加えて情報を補足する場合。
- VII. **知識共有の確認**：VIと同様に、説明の補足であるが、以前にとLの間で話題になったはずのこと自体をLが知らない様子の場合に発話される。
- VIII. **現場知識の確認**：現場から聞き手が事実を認知可能であると期待できるが、それにも関わらず、聞き手が理解を示していない様子なので、話し手に確認の必要が生じる。
- IX. **説明継続の合図**：説明を続けていくための合図。
- X. **発話行為の明示**：後件に「と言うんです」、「と言ったでしょう」等の遂行動詞を付加して、発話行為自体を記述、明示している。

次に、RとEの用例を分類する。用例の数は、RとEそれぞれ4例ずつの計8例である。なお、Kの用例は、1例しかなかったため、本レポートでは、Kによる「だから」は、分析対象としないこととする。また、岡本・多門の分類に当てはまらないと思われた用例は、**赤字**で、彼らの分類に追加した役割があると思われる用例は、**+赤字**で役割名を示した。

##### 4.1 Rによる「だから」の使用例

###### あ. 結果の記述（II）の役割（6:45~）

- 1 K: odori owatta yo.
- 2 E: oboeta?
- 3 K: u:::n un.

評価を下した  
理由（原因）  
(1~6行目)



ることが予測される。しかし、Rが選択肢を言う前に、9行目で、Kは、「鹿」と正解を言うってしまう。そこでRが「だから、(選択肢を言う前に、正解を)言うなって。」とKに下がり+上がり調子・強めの口調で言う。すなわち、Kは、3~5行目の前提によって、選択肢が言われることを予測できているにも関わらず、先に答えを言ってしまったために、「答えを言うな」という、行為の指示をKに対して行ったと考えられる。

URL: [https://www.youtube.com/watch?v=IoNRJT\\_zWU0](https://www.youtube.com/watch?v=IoNRJT_zWU0)

【え!!】鉄板屋さんで出てくるデザートが凄すぎた! 皆さんわかりますか!?

(2020/08/11)

### う. 結果の記述 (II) の役割 (2:05~)

1 K: papano kakkoiitokoroha dokodesuka?

2 R: papaniha kabuki toiu daizinasigotoga arujanaidesuka.

3 itsumo kisokutadashii seikatsuwo shite

4 butaiyounotokino seikatsu nanimonaitokihha

5 nanimonaiyouno seikatsu tteiu channto wakerareteiru.

6 dakara sugoina kakkoiinatte omou. (評価)

評価の理由

RとKのみが対談をする場面である。KがRに「パパのかわいいところはどこですか。」と質問し(1行目)、Rが2~5行目で質問に答え、「だから、(パパは)すごいな、かわいいなって思う。」と、6行目で評価を行っている。以上を踏まえると、Rは、2~5行目が理由でEを賞賛したということが分かる。よって、**結果の記述 (II)**の役割を持つと思われる。

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=5gg2wgqP2qM>

【パパのここがダメ笑】姉弟でパパ(海老蔵)の良いところ悪いところを話たら大爆笑だった! (2020/08/22)

### え. 事実確認する役割 (a)・会話の軌道修正の役割 (b) (2:45~)

1 E: kotoshiwo furikaette reikachannha doudesitaka?

2 R: unnto mazu ichibann tanoshikatta

3 ureshikattakotoha youtubega dekitakot[o.

4 E: [honytoni!

前提

- 5 K: honnto.  
 6 R: datte youtubetteiu keikennha chotto iikata  
 7 okasiikedo Butaiyattetara dkinakattaja[nn.  
 8 E: [soudane unn.  
 9 R: dakara:: sukoshi: shiogtoga nakunatta? a  
 10 (3)  
 11 E: e? reikaga?  
 12 R: chigau! papatokaga.  
 13 E: [papatokagane [a:: souxxx].  
 14 R: [daka [dakara! ] b  
 15 youtubega dekitatteiu  
 16 hazimetenokeikenndatttakara tanoshikatadesu.

Eが2020年を振り返ってどうだったかというRに質問し、Rが答えている会話である。用例④では、「だから」が2度発話されるため、まず、9行目で発言された「だから」について言及する。1行目の質問に対し、Rが2~3行目で、「(2020年の出来事の中で)うれしかったことはYouTubeができたこと」と答えており、YouTubeが出来るようになった理由の確認として、9行目で「だから、仕事が減った?」(a)と疑問形式で質問をしている。従って、1つ目の「だから」は、話者が聞き手に**事実確認する役割**を持つ。

次に、14行目の2つ目の「だから」(b)について言及する。一度、話題が「2020年を振り返って」から、「誰の仕事が減ったか」という質問に逸れたため、最初の質問へ戻ることを示す前置きとして、「だから」と強めの口調で言ったことが伺える。よって、2つ目の「だから」は、**会話の軌道修正の役割**を果たす。

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=ZOE5ugI3BXs>

【家族の本音】コロナ、襲名延期。2020年を三人が振り返る。(2020/12/31)

#### 4.2 Eによる「だから」の使用例

##### お. 知識の確認 (VII) + 会話の軌道修正の役割 (9:14~)

- 1 K: de deza-to nani?  
 2 E: iya dakara monndaidesuyo. ↓ (下がり調子+落ち着いたトーン) a  
 3 monndaidesu.  
 4 kanngennha papano kotoga sukide  
 5 shouganaideshouka?

6 K: shouganaidesu.  
7 E: seikai. @ kawaii.  
8 R: furu-tsu nannnana?  
9 E: dakara imakara ateteyo. ↓ (下がり調子+落ち着いたトーン) b  
10 R: meronaha katakattakara. kaki ka rinngo da!

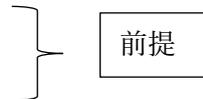
①の会話では、Eが「だから」を含む発言が2度している。1度目は、Kにデザートは何かと聞かれた次のターン(2行目)、2度目は、Rから同じ質問をされた次のターン(9行目)で発言された。ここで重要なのは、①の会話の前に、一度、Eがデザートは何かという質問をしているが、話題が別の話題へと移り、もう一度デザートの話へと戻ってきたという前提が存在することだ。従って、Eによる2度の「だから」は、(a)と(b)ともに知識の確認(VII)と会話の軌道修正の役割を持つ。

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=bkCrpHAibx8>

【食卓風景】娘(れいか)が食レポしたら、様になって驚いた。(2020/12/13)

#### か. 行動の指示(IV)の役割+しつけの役割(4:50~)

1 K: kore tabeteii?  
2 E: sore saigo.  
3 K: e:::  
(4)  
4 C: zettai saigo desho @  
nannde aidani hasamoutoshita [no @  
5 E: [souiu kannzidayone itumone.  
6 K: itumo deza-to ha saishoni tabe[ru  
7 C: [he::  
8 K: uchidehane.  
9 C: unn unn.  
(数分後)  
10K: kore tabeteii?  
11E: dakara saigo.



(ここで登場人物にCが登場しているが、C=カメラマンを意味する。)

1行目でKがEにデザートを最初に食べて良いか尋ね、2行目で、Eがデザートは最後に食べるようKに言う。数分後して、再び、10行目にKがEにデザートを食べていいか聞いたため、11行目で「だから、最後。」とKに言う。すなわち、「だから」を含む発言に

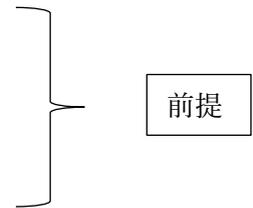
より、E は、K にデザートは最後に食べるように指示していることから、**行動指示の役割**と共に、**しつけの役割**を持つことが言える。

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=P3Wl56VaONQ>

【ごはん】 絶品御膳を堪能する子供たち。見てたらお腹空きます。。。(2020/12/30)

### き. 現場知識の確認 (Ⅷ) (5:00~)

- 1 E: kannkann kitaguniha nigemasenn.  
2 korona[ga  
3 K: [e! [nani?  
4 E: [iya da kitaguni ikitaiyotte ittajann  
5 K: u::[n.  
6 E: [dakara u:: nani koronaga owattekara oidette.  
(2)  
7 K: hai!



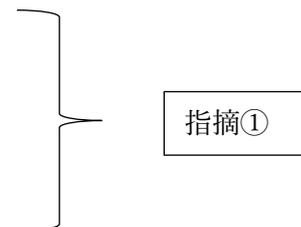
E と K が動画のライブ配信している際の会話で、ライブ配信中に送られてきたコメントに返答をしている場面である。1~2 行目で、E が、「北国は逃げないので、コロナが終わったら来てほしい」というコメントを読み上げている途中で、K が内容を聞き返す(3 行目)。4 行目で、その返答として、この会話ではなく、以前に行われたライブ配信で、北国に行きたいと話していたことを確認し、K もその内容に同意。1~5 行目の前提を踏まえ、「だから」を含む発話は、K と以前の会話の内容の確認を起こっていることが伺える。よって、**現場知識の確認 (Ⅷ)** であると言える。

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=HxQBhL7mnZE>

大晦日ライブ (2020/12/30 にライブ配信)

### く. 行動の指示 (Ⅳ) の役割+知識共有の確認 (Ⅵ) +**注意**の役割 (6:40~)

- 1 E: nagerunnjanakute po-nn  
2 kannkannha itsumo nagechatterukara  
3 janakute kouyatte hanasiteikuwake.  
4 wakaru? kannkann ime-zi.  
5 K: nanntonaku wakarukamo.  
6 E: dekiruyouninattaratitte mirukara.



7 K: a papani iwaretakotowo hitasura yattemasu.  
8 (10)  
· · } K が一人で練習する時間  
· · }  
9 E: saa yattekudasai. tesutodesu. sikenndesu.  
10 ippatsu honnbanndesu. honnbanntoissodesu. papaha  
11 papaha maeniimasu.  
12 bata bata. oya papaga mawarihazomemasita.  
13 (4)  
14 K: a.  
15 E: demo daibuyoine.  
16 imano mouchoidane. saigoni moikkaiyarou.  
17 saigono oshichaikenaino wakarū?  
18 kou yacchatajann chigau!  
19 kokokara kouyatte osanai. kokkokara kou.  
20 K: **sorede nagetaraiino?**  
21 E: **nagecha damenano!**  
22 **dakara ittajann!**  
23 **sakki omae wasureruna: : .**  
24 **nagecha damedatte!**  
25 **ima kanngennha konojoutaide yatterukara nagechauno!**  
26 **kokokara yaruttuttenno. wakarū?**  
27 K: unn.  
28 E: hai. jaa mouikkai.

指摘②

E が K に稽古をつけている際の動画である。扇子を使用する踊りを練習している際に、K が扇子を投げるとしてしまっているため、投げてはいけないという指摘を E がする（1～5 行目）。その後、一人で練習を行い、9 行目～28 行目で、2 度目の E の指導が始まる。その指導の際に、一度目で、K は扇子を投げてはいけないという指摘を受けたにも関わらず、20 行目で、「投げていいの?」と質問したため、21 行目で、E が投げてはいけないと強く指摘する。その後、22～24 行目で、E が「だから、言ったじゃん、さっき、お前、忘れてるな、投げちゃだめだって!」と、強めの口調で再度、K に伝えていることから、**行動の指示 (IV)**に加えて、**知識共有の確認 (VII)**と**子弟関係から成る注意**の役割も持つと考えられる。

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=0-RhHYWPQio>

【稽古】 勸玄と麗禾のお稽古です。(2020/12/25)

## 5. 考察

4節では、岡本・多門(1997)分類に、8例の「だから」を含む発話の用例を当てはめることで、親子が使用した「だから」の役割には、どのような差が見られるかを分析した。その結果を以下の表1で示すことが可能である。本節では、表1からみられる結果と会話の内容や状況を照らし合わせることで、それぞれのRとEが使用する「だから」の役割の違いについてもう少し細かく考察を行う。

表1：親子による「だから」の用例の分類

用例	Rの分類	Eの分類
あ・お	結果の記述(Ⅱ)	知識の確認(Ⅶ) + 会話の軌道修正
い・か	行動の指示/宣言(Ⅳ)	行動の指示(Ⅳ) + しつけ
う・き	結果の記述(Ⅱ)	現場知識の確認(Ⅷ)
え・く	a. 事実確認 b. 会話の軌道修正	行動の指示(Ⅳ) + 知識の確認(Ⅶ) + 注意

以上の表から、娘のRは、結果の記述の役割、父のEは、行動の指示と知識の確認の役割を持つ「だから」の使用率が高いことが分かる。Rによる結果の記述の役割は、用例あ・うで見られ、それぞれの会話で、「だから」は話題の中心となっている人への肯定的な評価を行っている。次に、Eの「だから」が持つ役割の考察に移る。行動の指示は、用例か・くで見られ、知識の確認は、用例お・き・くで見られる。用例か・くのどちらもEがKに行動の指示をするという共通の意味合いを持つが、用例かでは、親が子供をしつける、用例くでは、師匠が弟子に厳しく指導をするという異なる側面も持ち合わせている。また、今回の分析で、最も高い使用率を見せた知識の確認の役割を持つ「だから」は、Eの用例お・き・くで使用されており、Eが以前に話した内容をRやKに思い出させるという共通の目的を持つが、話者と聞き手の関係性は、親と子(お・き)、師匠と弟子(く)と異なり、前提となる共通の知識が同じ会話内に存在している場合(お・く)と存在していない場合(き)に分かれた。以上のことから、娘Rが使用する「だから」は、評価を想起させる役割、父Eが使用する「だから」は、教育的な役割をもつという結論に至った。

## 6. 課題

今回の分析では、3つほど課題が浮かび上がった。1つ目は、「だから」の発話者の偏りである。観察できた「だから」の発話者がEとRに偏ってしまったため、姉弟間の「だか

ら」の役割の違いを見ることができなかった。そのため、話者を絞って、動画を観察することで、偏りをなくす必要があると思われる。2つ目は、本調査では、あまり見られなかったが、前提と「だから」を含む発話が離れた位置にある会話（例えば、Eの用例お・く）についての分析である。このような種類の会話の分析を行うことで、違う特徴等が見られたかもしれない。3つ目は、ピッチやアクセント等の音韻的資源を活かすことができなかったことである。それらの資源を最大限に利用することで、より説明に説得力を持たせることが可能であったと思われる。

### 参考文献

Bolden, Galina. 2006. Little words that matter: discourse markers *so* and *oh* and the doing of other-attentiveness in social interaction. *Journal of Communication* 56:661-88.

Bolden, Galina. 2008. So What's up? Using discourse marker *so* to launch conversational business. *Research on Language and Social Interaction* 41:302-37.

Du Bois, John W. 2014. Towards a dialogic syntax. *Cognitive Linguistics* 25(3), 359 – 410.

Elizabeth Couper-Kuhlen and Margaret Selting 2018. *Interactional Linguistics: Studying language in social interaction*. United Kingdom: Cambridge University Press.

森田良行 (1980) 「日本語基礎2」角川書店

岡本真一郎・多門靖容 (1997) 「談話におけるダカラの諸用法」『日本語教育』98号